

## 1. 化学物質及び会社情報

昭和化学株式会社  
東京都中央区日本橋本町4-3-8  
担当  
TEL(03)3270-2701  
FAX(03)3270-2720  
緊急連絡 同上  
改訂 平成18年6月27日

化学物質等のコード : 0509-9332

化学物質等の名称 : けい皮酸エチル

## 2. 危険有害性の要約

分類の名称 : 分類の定義上危険有害物に該当しない。  
危険性 : 引火点は比較的高いが、可燃性がある。蒸気は空気と爆発性の混合気体を生成することがある。  
有害性 : 食品や化粧品香料としての用途もあり、有害性は特に問題ないが、経口摂取すると悪心、嘔吐などを起こすことがある。  
環境影響 : データなし

## 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 単一製品  
化学名 : けい皮酸エチル  
成分及び含有量 : けい皮酸エチル 99.0%以上  
化学式又は構造式 : C<sub>6</sub>H<sub>5</sub>CH<sub>2</sub>COOC<sub>2</sub>H<sub>5</sub>  
官報公示整理番号 化審法 : 3-1750  
安衛法 : -  
CAS No. : 103-36-6

## 4. 応急処置

眼に入った場合 : 直ちに流水で15分以上洗い流し、必要に応じて眼科医の処置を受ける。  
皮膚に付いた場合 : 直ちに汚染された衣服やクツを脱がせる。  
吸入した場合 : 直ちに患者を毛布などにくるんで安静にさせ、新鮮な空気のある場所に移す。呼吸困難または呼吸が停止しているときは直ちに人工呼吸を行う。  
飲み込んだ場合 : 毛布などで保温して安静にさせ、速やかに医師の処置を受ける。  
意図的に嘔吐させてはいけない。  
水でよく口の中を洗わせても良い。

## 5. 火災時の処置

消火方法 : (周辺火災の場合) 速やかに容器を安全な場所に移す。  
(着火した場合) 移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。初期の火災には、粉末・二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。大規模火災の際には、泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。  
消火作業の際には必ず保護具を着用する。  
消火剤 : 粉末・二酸化炭素、乾燥砂、泡

## 6. 漏出時の措置

付近の着火源となるものを速やかに取り除く。  
作業の際には必ず保護具を着用する。風下で作業をしない。  
(少量) 漏洩した液は、土砂などに吸着させて空容器に回収する。  
(多量) 漏洩した液は、土砂などでその流れを止め、安全な場所に導き、液の表面を泡で覆いできるだけ空容器に回収する。

## 7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い : 皮膚に付いたり、蒸気を吸入しないように適切な保護具を着用する。作業場は換気を良くする。  
保管 : 密栓して通風の良い冷暗所に保管する。  
酸化剤と隔離して保管する。

## 8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度：設定されていない  
許容濃度：日本産業衛生学会：設定されていない  
ACGIH：設定されていない  
設備対策：蒸気発生源は密閉化するが、または局所排気装置を設置する。  
保護具：必要に応じて、保護手袋、保護眼鏡、有機ガス用マスクを着用する。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

外観等：無色液体、果実香  
沸点：27.1  
融点：6.5 - 7.5  
揮発性：無  
比重：1.048 (25 )  
蒸気密度：6.1  
溶解度水：不溶  
その他：エタノール、エーテルに可溶。

---

## 10. 安定性及び反応性

引火点：110 以上 爆発限界：上限：データなし  
下限：データなし  
発火点：データなし  
可燃性：引火点は高いが、可燃性がある。  
自己反応性・爆発性：蒸気は空気と爆発性の混合気体を生成することがある。  
安定性：通常の使用においては安定である。

---

## 11. 有害性情報(人についての症例、疫学的情報を含む)

刺激性(皮膚、眼)：特になし  
感受性：なし(4%のワセリン液、人間の皮膚)  
急性毒性(50%致死量等を含む)：  
経口摂取すると悪心、嘔吐などを起こすことがある。  
ラット 経口 LD50 = 7.8 g / kg  
ウサギ 経皮 LD50 = 5 g / kg 以上  
亜急性毒性：データなし  
慢性毒性：データなし  
がん原性：データなし  
変異原性(微生物、染色体異常)：データなし  
生殖毒性：データなし  
催奇形性：データなし

---

## 12. 環境影響情報

分解性：データなし  
蓄積性：データなし  
魚毒性：データなし

---

## 13. 廃棄上の注意

エタノールなどの可燃性溶剤と混合して焼却炉で、少量ずつ焼却処理を行う。

---

## 14. 輸送上の注意

輸送に際しては直射日光を避け、容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積み込み荷くずれの防止を確実に行う。  
輸送に関する国際規制  
陸上輸送：データなし  
海上輸送：データなし  
航空輸送：データなし  
国連分類番号：国連の分類の定義上危険有害物に該当しない。  
国連番号：データなし

---

## 15. 適用法令

消防法：危険物第4類第3石油類非水溶性(2,000L)

---

## 16. その他の情報

参考文献  
化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ 化学工業日報社  
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ 化学工業日報社(2000)  
化学物質の危険・有害便覧 中央労働災害防止協会編  
化学大辞典 共同出版

安衛法化学物質  
産業中毒便覧(増補版)  
化学物質安全性データブック  
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)  
化学物質の危険・有害性便覧

化学工業日報社  
医歯薬出版  
オーム社  
三共出版  
労働省安全衛生部監修  
中央労働災害防止協会編

---

このデータは作成の時点における知見によるものですが、かならずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。